

文部科学省指定

高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究

～Will Project におけるキャリア教育の取組～

平成20年度

実 施 報 告 書

(2 年 次)

秋田県立能代高等学校

も く じ

1. 校長あいさつ（巻頭言）	1
2. Will Project におけるキャリア教育の取組	2
3. 将来構想 基本方針と今後の取組について（まとめ）	4
4. 具体的な取組	
1) 社会人講話	6
2) インターンシップ	8
3) スクールマナー集会	10
4) 職業研究・学部学科研究	11
5) 大学出前講座	12
6) ライフプラン・willプラン	13
5. 自己評価アンケート調査の分析	14
6. この一年を振り返って～成果と課題～	16
7. Will Project 構造図	17
8. アドバイザーの紹介とコメント	18
9. ポスター（総合的な学習の時間フェスタ2009）	19



キャリア教育 報告書



巻頭言

校長 山本 達行

「夢と志をはぐくむ学校」づくりを目指して始めた Will Project も2年目を終えようとしている。与えるだけの指導から脱却し、生徒が自らの目標に向かって主体的に学び、可能性に挑戦し、それぞれの能力や特質を伸ばしていくための効果的な指導法を求めて模索を続けている。同時に、単なる教科の学力にとどまらず、心と体を鍛え、次代を担う意欲と志を育てるために様々な取組を実践してきた。取組の成果は、「自己効力感」の強さを測る評価アンケートの分析結果が判明するまで明言できないが、生徒それぞれが活動を通して確実に何かを感じ、何かを掴んできている。その何かを、各自の内部で反芻させ、気づかせ、育て、本人の力に転化していきたいと考えている。

私たちの発想の根本は単純である。教育の原点である「人づくり」に真正面から向かい合おうとするものである。人間関係が希薄になり、生活体験も乏しくなるなかで、かつて自明であった「人は人によって人になる」ということが、今では忘れ去られているように感ずる。私たちは、人のつながりと豊かな体験を取り戻すことが「人づくり」の第一歩であると考えた。そして、次代を担う人材の育成には、地域や保護者、卒業生をはじめ賛同してくれる様々な人たちの力を借りながら、生徒の世界を広げ、この時代のもつ様々な課題と価値あるものに触れさせる必要がある。人と課題と価値に触れながら、自らを啓発し人間としての豊かさと深さを身につけていってもらいたいと思っている。

今年度、特に力を入れて取り組んできたのは、学習指導の改善についてである。授業改善を中心に研究を進めるとともに、学習評価や学力向上に向けたこれまでの取組を整理し、目的と位置づけを明確にした。また、学習指導における3年間の流れや目標を共有するための作業に入っている。「聴く・調べる・体験する」活動から得られる学びと授業とをいかに結びつけ、主体的学習活動へと意識を高めていくか、このプロジェクトの成否をかけた正念場を迎えている。

今、世界は大きな変化の渦中にある。これまで世界の秩序を支えていた枠組みや価値観が、変化の波に洗われ存在意義を問われている。現在の高校生が生きていく社会は、今日と同じ明日が続いていく社会ではない。自らの責任で明日を選択しなければならない社会であろう。また、将来への明確なビジョンを示し、人々に希望を与えるリーダーの出現も待たれている。アメリカ市民はバラク・オバマに希望を託した。その就任演説では、「建国の理念」に立ち返り、市民としての「責任と義務」、困難に立ち向かう「信念と決意」を市民に求めた。この就任演説は、静かに深く人々の心を揺さぶり何かを決意させたようだと言われている。私たちもまた、世界に希望と勇気と美德をもたらすような魅力的で力強い人材を育てる責任と義務を自覚し、様々な困難を克服しながら「夢と志をはぐくむ学校」づくりに邁進していく決意を固めている。

最後に、このプロジェクトを推進するなかで、様々な分野で活躍する多くの卒業生の存在を掘り出すことができた。そして、彼らの母校愛の強さと後輩への眼差しの熱さは、ネットワーク化によって本校発展の力となり得るものであることに気づかされた。同窓生諸子の惜しみない協力に感謝したい。また、私たちの取組の趣旨を理解し協力をいただいた多くの会社、大学、病院、そして官公庁等の関係者の皆様に衷心よりお礼を申し上げるとともに、今後とも一層のご支援とご鞭撻をお願いするものである。加えて、本プロジェクトの推進にあたり、リクルートワークス研究所主任研究員・辰巳哲子氏にアドバイザーをお願いできたことは、本校にとって幸運な出会いであった。氏の的確なアドバイスによって、プロジェクト全体が形あるものになってきたように思う。その献身的な姿勢に私たち自身が触発されてきたことを申し述べ謝辞としたい。「全ては生徒の幸せのために」と訴えた井上前校長の思いを受け継ぎ、私たちは勇気を持ってこの歩みを続けていく覚悟でいる。

Will Project

における

キャリア教育の取組

1 Will Project について

平成18年度に、本校の将来構想委員会は、およそ9ヶ月をかけて **Will Project** を策定した。(基本方針等についてはp. 4に掲載した。経緯は1年次の報告書で述べた。)

我々は、生徒に「大きな夢と高い志」を持たせる取組を実施することによって、自己の可能性に挑戦する気概を育てたいと考えた。明確な目的意識によって、学習意欲を向上させ、自発的な学習を促したい。この取組が、生徒・職員のモチベーションを高め、学校を変える起爆剤となることを期待して、これに伴うすべての取組を **Will Project** と称し、実行に移している。

具体的な取組としては、次の4項目をあげている。

- I 基本的生活習慣の確立に向けて
- II 自他を知り、社会を知ること、学びの意欲を高めるために
- III 学習指導の改善について
- IV 文武両道の堅持について

なかでも、「夢と志をはぐくむ」ための新しい試みとして導入したのが項目のIIであり、「総合的な学習の時間」を用いて「学びの意欲を高める」取組となっている。

この取組に、キャリア教育的な手法を用いることにしたことから、平成19年6月、文部科学省から「高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究推進校」の指定を受けることになった。

2 研究課題及び研究内容

上記の計画書において設定した研究課題及び研究内容は次の通りである。

「自他を知り、社会を知ること、学びの意欲を高める指導方法の充実」を研究課題として①②③に示す調査研究を行う

- ① キャリア教育の在り方に関する効果的な指導内容・指導方法の充実・改善
- ② キャリア教育の専門的知識を有する外部人材の活用及びその活用の在り方
- ③ その他

①に関しては、**Will Project** の具体的な取組の項目「II 自他を知り、社会を知ること、学びの意欲を高めるために」として計画したことを展開していくなかで、より効果的な指導内容・指導方法を模索しながら実施し、実施後の反省をもとに更に改善して次年度の計画を作成することと捉えて進めてきた。

1年次では、「**Will Project** 推進委員会」が「総合的な学習の時間」に計画されていた各取組の企画と事前準備、当日の指導内容や事後処理の方法を明確にして、各学年部が具体的な展開を行った。**Will Project** 全般を推進するための委員会ではあったが、取組の初年度ということもあり、計画の具体化に全力を注ぐことが急務と考えられたからである。

2年次では、進路指導部を「進路班」と「**Will** 班」

の2班に編制し、「Will 班」が上記の任務を担うことになり、「Will Project 推進委員会」本来の任務に戻るようになった。

2年次の指導内容は、概ね1年次の内容を踏襲した。主な変更点は、オープンキャンパスの取組を2年生から1年生へと変えたこと、2年生の「ライフプラン」を「Will プラン」と名称変更したこと、この2点である。前者は、以前から行われている希望者による東北大学オープンキャンパスと内容が重複するという反省からの変更である。後者は、1年生で取り組んだ「ライフプラン」を、2年生でも単純に繰り返すだけでは内容が深まらないだろうとの心配から、「夢と志の実現」に向かう近未来に焦点化して、より詳細なプロセスを描かせようとしたものである。(具体的な取組事例は、p. 6以降に掲載している。)

2年次の指導方法としては、指導する側もされる側も取組相互の関連性がよく理解できていないとの反省から、事前指導に力を入れた。さらに、それぞれのねらいと相互の関連性が一望できる「Will Project の構造図」の作成に取り組んだ。

②に述べている「キャリア教育の専門的知識を有する外部人材」とは、社会人講話の講師、大学研究などに関連した教授等、進路講話・講演会の講師、研究推進のためのアドバイザーを含めて考えている。2年次の指導内容は、概ね1年次の内容を踏襲したことから、今年度もおよそ60人の「外部人材」を招聘することになった。それぞれの企画の成否が講師の選定にかかっていることから、1年次と同様に大きな課題である。

研究推進のためのアドバイザーは、p.17に紹介している。アドバイザーからは、1年次には、キャリア教育の基礎からのレクチャーから「自己効力感」をもとにした「評価シート」の作成まで、多くのアドバイスをいただいた。2年次になって、「評価シート」の集計と分析に全面的なご協力と、「学習意欲について」と「各地でのキャリア教育の取組」のレクチャー、さらに「Will Project の構造図」の作成へのアドバイスをいただいている。紙面を借りて感謝の意を表したい。

③の「その他」は、学校の教育活動全体を通じて規範意識の涵養や自ら学ぶ力の育成により、将来様々な分野で日本や地域の中核を担う、心身ともに健康な人間を育てていくことを追求したいと考えた項目である。

3 Will Project としての取組

上述のように、Will Project の具体的な取組としては、I～IVの項目がある。このうち新しい試みとして導入したのが項目のIIであり、「総合的な学習の時間」を具体的に展開していく必要から、1年次は「Will Project 推進委員会」の活動もこの項目に集中した。

項目Iは「スクールマナー集会」として展開し、想定した以上の成果を得たと感じている。だが、他の項目については、十分に具体化できているとはいえない状態であった。

そこで、2年次の「Will Project 推進委員会」は項目IIIの「学習指導の改善について」の具体化に取り組んだ。

通常授業に関しては、アドバイザーのレクチャー「学習意欲について」において示された、学習意欲を支える「自己決定感」「自己効力感」「他者受容感」の3つの観点から見直して、目標達成型の授業を目指すことを確認した。達成目標の示し方についても4つのパターンが示され、2月の5教科による研究授業は、この「目標達成型の授業の研究」をテーマに実施され、改善が進められている。これが、「能代高校の授業」として確立・定着していくことを期待している。

また、授業以外の学習指導（朝学習・土曜学習・長期休業中の課外授業・放課後の課外授業など）についても、その目的や実施方法を整理し、明文化することによって確認した。小論文指導のシステムも一新した。

さらに、現在、「何をどこまで、いつ学ばせるか」について、3年間の指導の流れを整理し、確認する作業を進めている。これらは、次年度の「基本方針と今後の取組について」に反映されることになる。

さまざまな制約があって、この冊子の原稿は、平成20年度のすべての取組が終了する前の執筆になってしまったことをご承知おきください。



基本方針と今後の取り組みについて（まとめ）

Will Project 推進委員会（H20.3）

1. 「Will Project」の基本的考え方

- ◎「人を育てる」ことを明確に意識した、人づくりのシステム化を目指す。
- ・生徒・職員のモチベーションを高める取組であること。
- ・学校を変える起爆剤となるものであること。

2. 基本方針

(1) 目指す学校像と人間像

- 学校像：夢と志をはぐくむ学校
- 人間像：様々な分野で日本や地域の中核を担う、心身ともに健康な人間

※地域の進学校としての立場を堅持し、生徒の能力や特性を最大限伸ばし、生徒が自らの夢の実現に向かって歩いていくための土台をつくる。

(2) 目指す生徒像

- ①礼儀を含め、基本的な生活習慣が確立している生徒。
- ②自己の可能性に挑戦する気概を持った生徒。
 - a) 確かな学力を身につけた生徒
 - b) 主体的に学び活動する生徒
 - c) 明確な将来目標と達成意欲を持った生徒
- ③心と体を鍛え、健康で心豊かな生徒。

(3) 指導の柱

- (i) 基本的な生活習慣を確立する。
- (ii) 己を知り、他を知り、社会を知ることで、学びの意欲を高める。
- (iii) 学習指導の改善
- (iv) 文武両道の堅持

3. 具体的取り組みについて

(1) 基本的な生活習慣の確立に向けて

- ①マナーアップ指導 ②礼法指導の実施
- ③規範意識の向上にむけた取り組み
- ④家庭との連携 ⑤年間指導計画の作成

(ii) 己を知り、他を知り、社会を知ることで、学びの意欲を高めるために

- ①「総学の時間」を用いて、「学びの意欲を高める」取り組みを行う。
- ②各学年の取り組み
 - 1年：社会を知り、夢を育む
方法：聴く、調べる、表現する
テーマ：探求活動をとおして社会を知り、自分の夢について考える。
ねらい：夢を持たせるとともに、調査力、整理力、表現力をつける。
 - 2年：自分を知り、志を確かなものにする
方法：体験する、調べる、表現する

テーマ：体験活動をとおして自分を知り、社会での役割を考える。

ねらい：自主的活動を奨励し、計画・実践・まとめ（発信）・自己評価できる力をつけるとともに、ライフプラン作成能力をつける。

3年：挑戦する気概を育てる。

テーマ：進路別探求活動をとおして、進路目標に関する研究を深める。

ねらい：自律心と向上心、目標達成意欲をたかめ、困難に負けない力をつける。

③運営体制

- (ア) 進路指導部内に「WP班」をおいて対応する。
- (イ) これとは別に「Will Project 推進委員会」を構成し、企画・調整を行う。

(iii) 学習指導の改善について

- ①カリキュラムの改訂
- ②日課表（時間割）の見直し（H19.4からの継続）
 - (ア) 時間割は次の通り。
 - 50分授業週3日6コマ、週2日7コマで実施。
 - 7コマの曜日は、火曜日と木曜日。
 - 総合学習は水6校時、LHRを木7校時に実施。
 - 理数科の課題研究は、7時間目に確保する。
 - SHR、「面接時間」を確保する。
 - (イ) 退校時間について
 - 「自学の日（部活休養日）」は、毎週火曜日。
 - 部活休養日以外の日は、生徒は7時までに退校、職員は8時までに退勤することを原則とする。特例を認める。

③朝学習・土曜学習・補習・AO対策等の効果的実施について

- (ア) 朝学習・土曜学習について
- (イ) 平常時補習の実施について
- ④授業改善研修の充実について
 - (ア) 本校で目指す「良い授業」とは
 - (イ) 研究授業の実施、「授業参観日」の設定
 - (ウ) 授業アンケートの実施
 - (エ) 教育専門監や予備校講師による授業を参観・研究会の実施

⑤評価法の研究

⑥学力向上対策の研究

⑦個別指導の改善

(iv) 文武両道の堅持について

- ①部活動の奨励・活性化 ②学習時間の確保
- ③教科外能力の評価 ④人間性の錬磨

（注）主な項目を取り上げて、詳細な記述は一部省略している。改訂部分に下線を付した。

「総合学習の時間」年間計画

			1 年	2 年	3 年	備 考
4月	16	水 総学	スクールマナー集会 / 進路希望調査 I			
	23	水 総学	Will Project の説明会 (1 体)		Will Project の説明会 (2 体)	1 年生の進路講話は 4/26
	30	水 総学	社会人講話① 事前指導	インターンシップ事前指導①	小論文指導①	
5月	7	水 総学				月曜授業
	14	水 総学	社会人講話① 2 コマ (保護者)	インターンシップ事前指導②	振替授業	
	22	木 総学	職業研究①	教育実習生講話		5/21 の総学
	28	水 総学	職業研究② 講話 2 コマ (リクルート)	進路指導資料の説明会	進路指導資料の説明会	1 年生は 5/29 の LHR で説明会
6月	4	水 総学	振替授業			
	11	水 総学	進路講演会 (本校 O B : 気象予報士 渡辺博栄氏)			社会人講話② と兼ねる
	18	水				第 1 回定期考査
	25	水 総学	職業研究③	インターンシップ事前指導③ 講話 (意義)	小論文指導② 2 コマ	
7月	2	水 総学	職業研究④ クラス発表会	インターンシップ事前指導④	学年活動	
	6	日 学校祭	学校祭で中間発表 (掲示)			
	9	水 総学				学校祭の代休
	16	水 夏期休業		インターンシップ事前指導⑤ 講話 (マナー)		
夏休み	21	月 補習日		インターンシップ出発式		
	22	火 補習日		インターンシップ・1 日		
	23	水 補習日		インターンシップ・1 日		
	24	木 補習日		インターンシップ・1 日		
	25	金 補習日		インターンシップ事後指導		
				オープンキャンパス (東北大)	オープンキャンパス (各自)	東北大 O C は 7/29,30
8月	27	水 総学	学部学科研究①	インターンシップ発表会 (クラス内発表)	進路講話 2 コマ	
9月	3	水 総学	インターンシップ発表会 (校内発表)		振替授業	
	10	水 総学	学部学科研究②	大学研究①② 2 コマ	センター試験出願説明会	
	17	水 総学	社会人講話③ 2 コマ (起業家)	大学研究③	推薦入試出願説明会	
	24	水 総学				第 2 回定期考査
10月	1	水 総学	学部学科研究③	進路講話 2 コマ	進路別学習①	
	8	水 総学	学部学科研究④ / 進路希望調査 II	小論文指導① / 進路希望調査 II	進路別学習② / 進路希望調査 II	
	15	水 総学	学部学科研究⑤	オープンキャンパス (弘前大)	進路別学習③	1 年生弘前大学 O C は 11/4
	22	水 総学	社会人講話④ 3 コマ (大手企業)	小論文指導②	進路別学習④	4,5,6 校時
	29	水 総学	振替授業		進路別学習⑤	修学旅行
11月	5	水 総学				月曜授業
	12	水 総学	社会人講話⑤ 事前指導	出前講座 4 コマ	進路別学習⑥	
	19	水 総学	社会人講話⑤ 2 コマ (職業別)	Will プラン作成説明会 (1 体)		3 年第 3 回定期考査
	26	水 総学	ライフプラン作成説明会 (1 体)	Will プラン作成指導①	進路別学習⑦	
12月	3	水 総学	ライフプラン作成指導①	Will プラン作成指導②	進路別学習⑧	
	10	水 総学			進路別学習⑨	1・2 年第 3 回定期考査
	17	水 総学	ライフプラン作成指導②	Will プラン作成指導③	進路別学習⑩	
冬休み			ライフプラン作成	Will プラン作成		
1月	14	水 総学	休み明けテスト	休み明けテスト	進路別学習⑪	
	21	水 総学	ライフプラン発表原稿作成 / 進路希望調査 III	Will プラン発表原稿作成 / 進路希望調査 III	進路相談	
	28	水 総学	ライフプラン発表会	Will プラン発表会	進路相談	
2月	4	水 総学	1 年間のまとめ (アンケート)	1 年間のまとめ (アンケート)		3 年生は 2/2 に実施
	11	水 総学				建国記念日
	18	水 総学	振替授業	振替授業		
	25	水 総学	振替授業	振替授業		
3月	4	水 総学	振替授業	振替授業		
	11	水 総学				第 4 回定期考査
	18	水 総学	合格体験講話 (一般受験)	合格体験講話 (一般受験)		

具体的な 取組

社会人講話

目的 ・ ねらい

企業や研究機関はじめ社会のさまざまな分野で活躍している方々の講話を聴くことで、望ましい職業観や人生観を養う。また、将来の夢や志、生き方や在り方を真剣に考えることで、進路選択や進学意識の向上、進路目標達成に対する学習意欲の高揚を図る。

社会人講話① 5月14日

「働く」ということについて考え始めるきっかけをつくるため、生徒にとって身近な大人である保護者を中心に講話をお願いした。また、担任の思いを語ることで、クラスの深まりと団結を図った。

● 講師一覧 ● ● ● ●

1 A	中山 明美 太田 研	能代山本組合総合病院 能代高等学校
1 B	浅野 孝子 北林 孝	能代山本医師会病院 北部建設
1 C	大越 則子 大高 勇	能代市役所 大高設計舎
1 D	酒井 文雄 佐藤 智和	法輪寺 能代北高校
1 E	仙葉 清志 渡部 浩美	本校キャリアアドバイザー 東北電力秋田火力発電所
1 F	石川 陽子 松橋 守	浄城南小学校 松橋工業(株)



社会人講話①の様子

社会人講話② 6月11日

講師 気象予報士 渡辺 博栄氏
演題 『地球環境の変化と気象災害』

本校の卒業生であり、NHKの番組等で全国的に活躍している気象予報士の渡辺博栄さんに講演を依頼した。先輩から後輩たちへのメッセージとエールを交えた内容で、希望する保護者も出席した。

社会人講話③ 9月17日

講師 庄内鉄工(株)代表取締役 庄内 豊氏
演題 『能代から世界へ』

地元の有力企業である庄内鉄工(株)の代表を務め、本校の卒業生でもある庄内豊さんに講演を依頼した。地元能代から日本全国や世界を相手にビジネスを展開する庄内さんの志を語っていただいた。

社会人講話④ 10月22日

日本を代表する大手企業の中核で働いている方々を講師にお招きし「企業の社会的役割と、働くことの意義や高い志を持って働くことの必要性」について話していただいた。講師紹介を兼ねた全体講話の後、各企業別の教室に分かれ、生徒は興味・関心のある分野や企業についての詳しい話を聞き、質疑応答を行った。

講師一覧

井瀧 正彦	野村資本市場研究所研究部長
大谷 浩人	野村証券決済部外国証券決済課長
牧野 達也	三菱UFJ信託銀行証券代行部会社法務コンサルティング室長
長谷川祐一	ヤフー株式会社広告本部動画広告推進室長
藤解 和尚	株式会社ジェーシービー企画部CSR推進室長
高畑 昇	富士フィルムホールディングスコーポレートサポート部CSRグループ

社会人講話⑤ 11月19日

生徒の希望する職種をもとに、下記にある23名の講師をお招きし、小グループに分かれてのグループ討議を行った。やりがいや使命感・働く意義を深く考えさせ、望ましい職業観や人生観の育成を図った。



社会人講話⑤の様子

講師一覧

小学校教員	岩館小学校
中学校教員	二ツ井中学校
能代市役所	企画部総合政策課
秋田県庁	総務企画部総合政策課
弁護士	能代ひまわり基金法律事務所
通訳	英語塾経営
編集出版	株式会社ウェーブ
医師	ねもとクリニック
臨床検査技師	山本組合総合病院
理学療法士	山本組合総合病院
看護師	山本組合総合病院
薬剤師	能代山本薬剤師会
薬剤師	山本組合総合病院
獣医	工藤獣医科病院
工学技術者	能代オリエンタルモーター
プログラマー	秋田公立美術工芸短期大学
新聞記者	北羽新報社
スポーツトレーナー	秋田県スポーツ科学センター
デザイナー	ココラボラトリー
生物研究者	秋田県立大学木材高度加工研究所
警察官	能代警察署
消防士	能代消防署
政治家	能代市長

改善点

事前指導を充実させるため、社会人講話①と⑤で事前指導の時間を確保した。また、社会人講話⑤で、市役所と県庁、小中学校、院内薬局と調剤薬局をそれぞれ1グループにまとめ、似たような職種間でのお互いの類似点・相違点ができるよう工夫した。

成果と課題

5回の社会人講話それぞれについて、ねらいや形式をかえ、生徒の夢や志の育成につながるよう工夫しながら計画・実施した。それぞれの講話はどれもすばらしかったが、事前事後指導の面では不十分な点もあった。

また、各社会人講話の他に職業研究や学部学科調査等の作業が並行して行われたこともあり、生徒にとってはそれぞれの目的やつながりが分かりにくく、消化するだけの生徒も見受けられた。今後の課題として、個々の活動内容を深め、得られた感想や成果を次の取組へと生かしていく工夫が必要である。

インターンシップ

目的 ・ ねらい

本県では、高校生インターンシップ推進事業を実施しており、原則として高校2年生終了までに、全生徒が各事業所での就業体験を行うことになっている。高校での就業体験は、一般的に就職希望の高校生を対象に行われるが、本校では、進学を希望する生徒が大多数を占めることから、大学等の高等教育機関卒業後の就職を念頭に置き実施している。

本校でのインターンシップの目的は、「将来就業を希望する職業分野での体験活動を通して、当該職務への理解を深め自己の将来ビジョン構築の契機にすること、今後の高校生活において主体的に学ぶ態度を育成すること」である。また、この活動を通じて生徒一人ひとりが「自らの夢や志をより大きく育むこと、その実現のために今なすべきこと見つけ直し具体的な行動に移すこと」がねらいである。

(1) 事前指導

内容

①実習先の決定

表1は今年度の指導の流れである。

表1：平成20年度インターンシップ指導の流れについて

期間	項目
4月中旬～	事業所交渉・一次依頼文書発送
4月18日	インターンシップ実習希望調査
4月21日	高校教育課への報告①
4月30日	事前指導①（実習希望先最終確認）
5月14日	事前指導②（実習先調査）
5月28日	実習先の最終決定
6月5日	高校教育課への報告②
6月上旬	保険加入（傷害保険、賠償責任保険）
6月16日	保護者への通知（参加同意書、契約書）
6月20日	担当教員と生徒の顔合わせ
6月23日～	各事業所等への依頼・打合せ
6月25日	事前指導③（講演） ～能代高校におけるインターンシップの意義について～
6月27日	実習場所の最終確認と諸注意
7月2日	事前指導④（実習事業所の研究）
7月16日	事前指導⑤（講演） ～インターンシップ実施上の諸注意、礼儀、マナーについて～
7月15日 までに	各事業所等打合せ事項伝達
7月21日	出発式
7月22日 ～24日	インターンシップ実施
7月25日	実習報告・礼状発送
8月8日	高校教育課への報告③
8月22日	実習報告書（発表原稿）完成
8月27日	クラス内発表会
9月3日	学年発表会

実習希望先については、1年次後半から検討させていたこともあり、4月の段階でほぼ出そろったが、昨年度実績のない事業所や県外事業所での実習を希望する生徒も多く、実習先の新規開拓および調整に時間を要した。昨年に引き続き希望者がいる事業所には、事前に1次依頼をしていたこともあり、生徒の受け入れはスムーズであった。

②事前講習

「能代高校におけるインターンシップの意義とは」、「インターンシップの心構えとマナー」と題し、2回の事前講習会を実施した。いずれも外部講師に依頼したが、それぞれ専門的かつ実践的な内容で、生徒の意識と自覚を高めるものであった。



事前講習の様子

(2) インターンシップ

今年度の実習先は県内外を含め64カ所となった。期間は原則3日間だが受け入れ先の事情により2日以内となったのが20事業所あった。

教員志望者は出身中学校での実習となったが、夏期講習の指導に携わるなど指導の実践的な機会を得た。公務員は秋田県庁など県の機関にもご協力頂き、職務の多様性と専門性を体得することができた。医療分野では医師や看護・理学療法士や薬剤師などの専門分野に分かれて実習し、医療に携わる上での倫理観などを直に体感した。福祉分野では実際に入所者や園児と触れ合い、必要とされる資質や態度を感じることができた。

また、今年初めて7名の生徒が県外（東京、千葉、宮城）での実習に参加した。



インターンシップの様子（秋田空港）

(3) 事後指導

7月25日に全員が离校し、終了の報告とインターンシップ日誌の提出、事業所へのお礼状の発送を行った。8月27日に各自が作成したインターンシップレポート（A3版1枚）を使いクラス内発表会を行った。9月3日には1・2年生全員を対象に校内発表会を実施し、各クラスの代表6名がインターンシップの成果を発表した。



インターンシップレポート

改善点

主な改善点は次の5点である。

- ① 主な実習希望先に対しては、4月の段階で校長教頭が直接出向き1次依頼をした。
- ② 実施可能期間にある程度幅を持たせることで、実施期日に対する事業所からの要望に対応できるようにした。
- ③ 県外で実習を希望する生徒に対しても、事業所を開拓し実習を実施した。
- ④ 実習先に対し参加する生徒自身に電話連絡をさ

せた。また実習に臨む意気込みや期待感を事前にまとめ実習先に提出させた。

- ⑤ 実習日誌とは別に、実習の内容や成果を1枚のレポートにまとめさせた。

成果と課題

実施2年目ということもあり、事前準備や実習の流れもスムーズであった。多くの生徒が自分の希望に添った職種や事業所での実習となったため臨む姿勢も積極的であった。各実習先においても、本校のインターンシップのねらいを実習内容に反映していただいたことで、その職業に対する興味関心を高め、今後の学習動機を高めるに十分な経験となった。

課題としては、一部の職種や事業所では職場見学的な内容しか実施できず、生徒の希望に応えることができなかったこと、中学校では夏休み中の実施となったため、学期中の活動に参加できなかったこと、などがあげられる。また、実習後に高まった生徒の活動意欲を十分に発揮させる場面を設定できなかったため、次年度以降はインターンシップ後の事後指導に工夫が必要となる。

生徒の感想より

看護師になりたい気持ちが一層強まりましたが、そのためには学力はもちろんコミュニケーション能力が不可欠だと痛感しました。学校での生活態度に気をつけ勉学に励みたい。
〔社会保険病院〕

「国際協力は相互扶助の関係であり、途上国から輸入している日本は他の国々を援助して当然、ODAをすべてカットすれば10年後の日本はない」というJICA職員の言葉が印象に残っている。ボランティアが偽善でないことに確信が持てた。自分が貢献できることを見つけたい。

〔JICA地球広場〕

スクールマナー集会

目的 ・ ねらい

- ・ Will Project の指導の柱にある基本的生活習慣の確立を図る。
- ・ 学校生活のルール及びマナーについて、生徒職員間で共通理解を図る。

内容

Will Project の具体的取り組みの第一が「基本的生活習慣の確立」で、スクールマナー集会は総合学習の時間の最初に行われるものである。内容は、全校生徒を対象としたマナーアップ指導と規範意識の向上についての説明を行う。生活面のほか授業を受ける上で心構えにも触れ、学校生活全般における規範意識の向上を図る。

2、3年生は同じような説明を聞くことになるが、年度のスタートにあたって生徒職員が一堂に会し認識を新たにすべきとの意見が大勢であった。

改善点

昨年の反省から、パワーポイントの作成に工夫を施した。生徒指導関係で髪型や服装などの整容を、静止画像や動画なども使用し、よりわかりやすくした。

成果と 課題

校内での生徒のあいさつは新任職員や本校を訪れる外部の方々にも定評のあるところだが、授業内での指導はもとより昇降口指導や街頭指導などと連動した三位一体の指導によって、昨年にも増して Will project の精神が浸透してきていると考えられる。

来年度に向けて改善すべき点としては、①具体的な指導事項について教員がいっそう共通理解を深め意思統一を進めること、②年度当初だけではなく前後期の境目の時期などに2回目を実施して指導の徹底を図ることなどが指摘されている。

能高生としてのマナー③ 生活行動 その1

◆挨拶の徹底

- 挨拶は一番最初のコミュニケーション
- 人間関係の構築にもつながる
- 挨拶はためらわない
- ホウレンソウ(報告 連絡 相談)
- 来校者、保護者、友人にも明るくさわやかに
(進路関係の来校者が一番多い)

授業のマナー⑤⑥

⑤体調の管理を！

授業を休まないのが基本マナー

⑥謙虚で素直な心！

何かを吸収して成長するために必要なことは、素直な心と謙虚な気持ち。



女子のネクタイについて

パワーポイントによる説明画面

職業研究・学部学科研究

目的 ・ ねらい

- 進学を希望する学部や学問的に興味がある学科について詳しく調査しレポートにまとめることで、なぜその学部・学科に進学するのかを考えさせ、進学意識と学習意欲の向上を図る。
- 学部・学科の最新情報に触れながら、関連分野への興味関心をより深める。2年次のコース選択の動機付けとする。
- 夢を持たせるとともに、調査力・整理力・表現力の育成をする。

内容

職業研究① ガイダンス

学年全体に主旨説明、昨年度の反省点などを説明し、指導を統一させた。

職業研究② 講話 リクルート 岸 宏行 氏

職種や働くスタイルの多様性についての内容で、職業選択の幅を広げるとともに将来のライフスタイルについて考えさせた。

職業研究③ 発表原稿作成

情報科からも4時間程度、指導・協力していただき調査・研究を進めた。

職業研究④ クラス発表

各自が作成した原稿をもとにクラスでの発表会を行った。小グループごとに発表した後、代表生徒によるクラス内発表を行った。自分の興味・関心だけでなく他の職業にも目を向けることができた。

昨年と同様、学校祭にて職業研究レポートを展示し保護者の方々にも自分たちの取組を理解してもらうよう務める。

学部・学科研究① ガイダンス

研究の必要性や調査方法について説明した後、希望する学部分類のアンケートを行った。

学部・学科研究② グループ別活動

学部分類ごと（10グループ）に分かれ、担当教員がグループの特徴に応じたアドバイスを行った。

学部・学科調査③④ 各自、調査研究

学部・学科調査⑤ レポート発表

自分が作成したレポートを元に、各学部分類ごとに研究内容の発表を行った。

改善点

昨年度は、大学の教員を招いて学部学科間の違いについて説明をしていたが、生徒の自主的・主体的活動を重視し、今年度は、生徒が自分たちで調査する方法に変更した。

成果と課題

職業研究や学部・学科研究をとおして、自分の志望する学部学科や学問分野への興味関心を持ち続け、更なる進学意欲の向上につながった。また、進路選択と職業との関係性を知ることができた。生徒個人が発表する場や、他の意見を聞く機会が増え、考え方や視野が広がり、自分の意見を発信する事ができる生徒が増えた。

一方で、作業内容が多すぎ生徒も教員もそれを深めることができず、消化する事に追われた感が否めない。今後、活動内容の精選が必要である。

生徒の感想より

- ・まずは身近な目標を立てることが大切だ。
- ・いろいろな可能性を考えてみたい。
- ・チャンスを逃さない心構えが必要だ。
- ・学ぶことで成長するので日頃の勉強を頑張ろうと思った。
- ・イメージだけで職業や学科を選んでも意味はない。もっと内容を理解する必要があると感じた。

大学出前講座

目的 ・ ねらい

大学教員から各学部学科の講座を実際に受けることで、学問の深さを知り、学びたい分野に対する興味・関心をより強いものにすると同時に、その学部に対する進学意欲の高揚を図り、日々の学習意欲を喚起する。

内容

日時：平成20年11月12日 3・4校時
5・6校時

講座一覧

※1人2講座受講

「異文化コミュニケーションに必要な知識と技能」 国際教養大学グローバルスタディ課
「法律の学び方とそのおもしろさ・むずかしさ ～自動車事故の責任～」 ノースアジア大学法学部
「経営学とコンピュータ」 法政大学経営学部
「古代ギリシア・ローマのことばと文化」 秋田大学教育文化学部
「社会心理学入門：人の心を推測する」 東北大学文学部心理学講座
「地球の未来を支える高分子材料の世界」 新潟大学工学部
「『面積』について考える」 山形大学理学部数理科学科
「母と子に向けた看護」 秋田大学医学部保健学科
「食品と特定機能性食品、くすりの違い」 岩手医科大学薬学部
「地球環境と自動車依存の軽減」 早稲田大学社会環境工学科

改善点

今年度は事前に生徒から受けてみたい講座を確認し、可能な範囲で希望に合った講座を開設した。また、大学研究の一環として行っていた2年次のオープンキャンパスを1年次に移行し、取りかかりを早めた。

成果と 課題

大学での学問と高校での学習の違いを実感したようである。高度な学問研究を進めていくためには、高校での学習が基礎になっていることが実感できたようであった。また、大学教員の研究に対する情熱、生き方を肌で感じ、今後の進路決定や人生設計に少なからず影響を与えたようである。

課題は、大学との連携を今回限りにするのではなく、継続的な高大連携を図ること、大学側から産学連携を紹介してもらうことによって大学卒業後の世界を知っていく機会を設けることであろう。



出前講座の様子

生徒の 感想より

・私は経済に興味を持っているが、大学の講義内容を知らなかったので、今日の話はとても参考になった。講義の中の「おにぎり管理問題」では、利益や損失をどう考えていくのが面白く、経営学について興味を持った。

(「経営学とコンピュータ」を受講して)

・数学の授業で学ぶ面積の公式には、とても古い歴史があることを学んだ。数学は、歴史上の賢人たちが生涯をかけて研究してきた財産であり、そのおかげで数学を学ぶことができることに感激した。今後、これまでは違った視点から数学を学ぶことができると思う。将来、数学を勉強したいと思っているので、とても貴重な時間となった。

(「『面積』について考える」を受講して)

ライフプラン・Willプラン

目的 ねらい

○ライフプラン（1年生）

一年間の活動の集大成として、将来の夢や志を含めたライフプランを作成する。また、その発表をとおして、自分の考えを他者に伝える態度を養い、生徒同士の相互理解を深める。

○Willプラン（2年生）

これまでの活動で培ったライフプランのうち、より近い未来についての将来プランを作成する。また、その発表をとおして、近未来に対する志や目標を再確認する。

内容

○ライフプラン

11月26日に校長・進路指導主事からライフプラン作成の意義を説明した。昨年度の反省を生かし「家庭生活」よりも「夢と志」に重点を置くことが確認された。



ライフプランの説明（校長より）

1月28日、多くの先生方が参観する中でクラスごとに発表会が行なわれた。小グループに分かれて発表した後、代表生徒によるクラス内発表を行った。質疑では、「ただその職に就くだけではなくその後の進路も考えるべきでは」といった発展的な意見も交換された。

○Willプラン

11月19日に Willプラン作成の説明会を行い、「来年の志望理由書にもつながるので、自分の思いが

読み手に伝わるように書くこと」「なぜその進路に進むのかという動機と目的意識を明確にすること」などを確認した。

1月28日に Willプランの発表会を行った。原稿用紙4～6枚程度にまとめた内容を小グループ内で発表した後、数名の生徒がクラス内発表を行った。

改善点

1年生のライフプランでは、家庭科や情報科と連携を図り、授業の中で生活設計や調査研究の分野を扱った。また、ワークシートを横書きで簡略な様式に変え、家族の思いを記入する欄を設けた。

2年生の Willプランでは、1年次のプランの繰り返しではなく、近未来の具体的な姿をイメージすることで、現状を見つめ直すきっかけになるよう工夫した。

成果と課題

各プランとも、年度末の総まとめとしての取り組みが期待されるので、年度当初からプラン作成を意識して活動させる必要がある。また、学年の進行とともに内容が深まっていくことを自覚できる取組にさせたい。



ライフプラン発表の様子

自己評価アンケート調査の分析

1 自己評価アンケート

Will Projectで計画している様々な取組をすることにより、本校の目指す生徒像に生徒はどこまで近づいているのか、生徒に備わって欲しいと考えている力を生徒はどこまで獲得できているのか、生徒の現状を把握しプロジェクトの内容に反映することをねらいとして、辰巳哲子氏のアドバイスにより「生徒の自己効力感」に着目して調査することにした。

昨年度の報告書P.17にあるように、自己効力感の段階別項目を決めた。そして、少なくとも各学年で獲得していて欲しい能力を生徒はどこまで獲得できているのか、自己評価により調査した。その結果を受けて取組を見直した項目について、いくつか触れておきたい。なお、昨年度掲載したものは原案であり、実際には48の段階別項目を設定し、それに基づいた調査票を作成し調査した。その結果をグラフ化したものが、次ページのグラフである。

2 授業態度・思考と表現について

秋田県教育委員会の重点指導項目であることもあり「授業中指名されたら、返事をして立つ」ことに対しては、ほとんど問題がないようである。しかし「授業中に、自分から質問したり考えを述べる」ことについては、なかなかできていないようである。

確かに、大人でも会議中に自分の意見を述べたり、質問したり、自分の考えと違う発言に対して意見を述べたりすることはなかなか難しい。しかし、これは社会人として必要な能力であると思われる。日常の思考と表現の質問項目と比較しても、授業中に自分の考えを述べることは苦手なようである。

アドバイザーの指摘に基づき、今年度からクラス経営や授業においても「他者受容感」という観

点を取り入れることにした。これによりどう変わるのか、アンケート結果を分析し、更に改善を進めていきたいと考えている。

3 小論文について

小論文についてのデータからも、生徒の苦手意識がうかがえる。しかし、3年生になって書き慣れてくると、意識に大きな変化がみられるようである。

この結果から、今までの小論文指導について見直し、1年生からもっと系統立てて指導する体制を試みた。これにより生徒の意識がどう変化するのか、経年比較をしながら指導体制を整えていきたい。

4 夢と志について

2年生と3年生に関しては、入学時からの取組ではなく、計画の一部を取り入れただけの指導になっている。様々な取組が、進路面や学習面で生徒をどのように変容させているのか、これからも調査を続けていく中で分析していきたい。

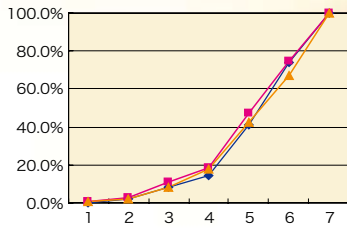
5 文武両道について

文武両道は学校の校是であり、部活動加入率が95%割を超えている。調査の結果を見る限り、勉強との両立については苦勞しているものの、部活動を通して人間として更に大きく成長しているという実感を大多数の生徒が持っているようである。部活動顧問の指導力の高さがうかがえる。

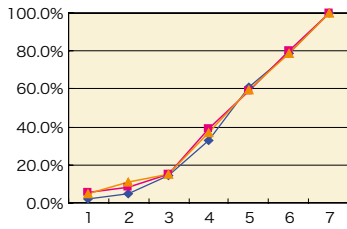
これからも部活動での指導を通し、生徒を人間的に成長させていきたい。

次頁に自己効力感の段階別項目の一部とそのデータを掲載している。

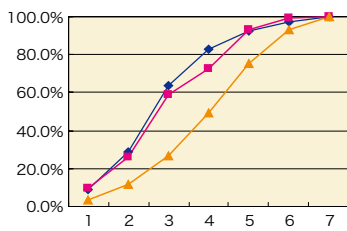
基礎段階



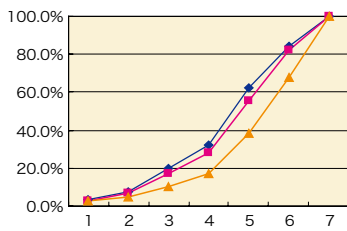
授業中に指名されたら、返事をして起立する。



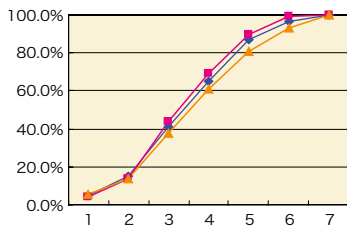
話し合いの場で自分の意見を述べることができる。



小論文の課題に出題されそうな、話題や出来事に関心を持っている。

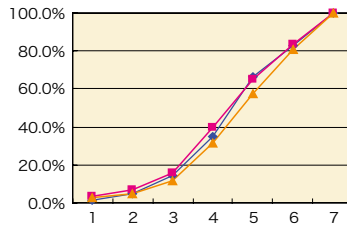


自分の夢や志をもつ。

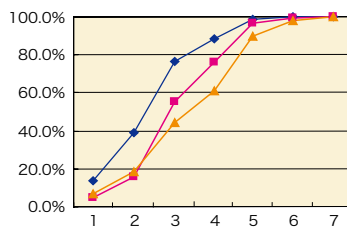


学習と部活動との両立を目指し計画性を持って活動する。

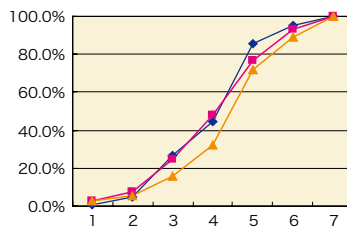
移行段階



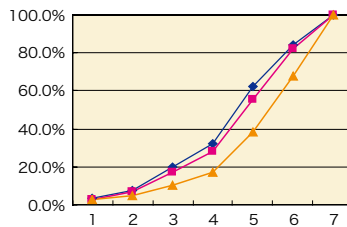
話し合いの場で、たいていの場合にははっきりと意見を主張する。



小論文の構成の基本(用語や考え方)を知っている。

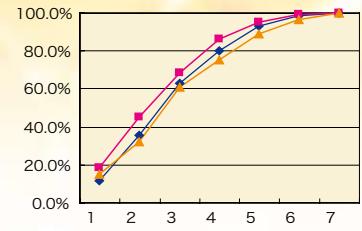


社会の現実を踏まえながら、夢や志を実現する方法をみつける。

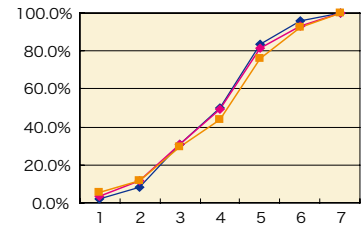


部活動を通して、自分の心身を鍛えるよう努力する。

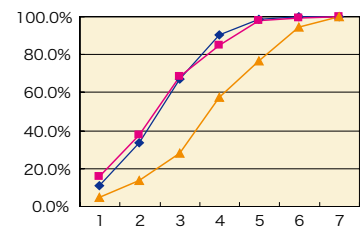
発展段階



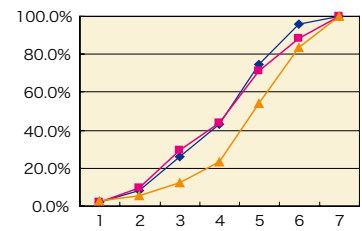
授業中に、自分から質問したり考えを述べる。



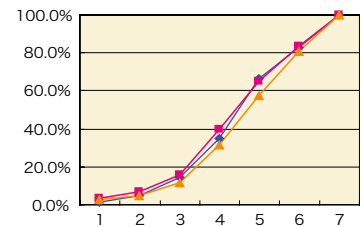
話し合いの場で、意見が対立したときでも自分の意見をはっきりと述べるができる。



志望校の小論文に取り組み、類似する問題に挑戦する。



夢や高い志を、実現させようという強い意志(気概)をもつ。



部における各種の活動を通して心身を鍛え、人としてさらに更に大きく成長する。

横軸 / 1:非常に自信がない 2:自信がない 3:あまり自信がない 4:どちらでもない 5:少し自信がある 6:自信がある 7:非常に自信がある
縦軸 / 各学年の人数に対する割合(累積度数表示)



この一年を振り返って

～成果と課題～



1 調査研究①について

キャリア教育の在り方に関する効果的な
指導内容・指導方法の充実・改善

1年次（平成19年度）は、計画された各項目のイメージそのものの形成・共有から始めて、予定された期日に具体的な展開ができるよう準備と共通理解を終え、更には評価や記録にも配慮するという大変ハードな取組であった。2年次（平成20年度）は、概ね1年次の指導内容を踏襲したことから、前年度の経験や資料が大いに役立った。とはいえ、生徒が変わり指導する側も大半が未経験という状況であり、安定した指導体制ができあがるまでには最低3年の経過が必要と思われる。

指導方法に関しては、計画された各項目相互の関連性がわかりにくいという前年度の反省に基づき、事前指導や広報の改善に力を入れた。4月実施の「Will Projectの説明会」は、パワーポイントを使用し視覚資料を提示してわかりやすいものにした。1年生対象となる「社会人講話」も5回計画されているが、それぞれの講師選定の意図や講話の形態、講話を聞くための心構えなどを伝え、「ライフプラン作成」に至るストーリーを語っておく「社会人講話準備」の時間も設けた。前年度は継続的に発行できなかった「Will Project通信」も、毎月定期的に発行して今月の予定を周知するよう努めた。

取組2年目となり、例えば1年生が「インターンシップ発表会」に参加してイメージが事前に形成されている、あるいは1年生のうちにインターンシップ希望調査を実施できた、などの準備に関するメリットが大きかった。流れがよくなったことは成果といえるが、個々の取組に自らの課題を設定しているか、なし終えた時点で自らの確かな力として形成されているか、成長の実感をもっているのか、これらを検証していくことが課題となる。

2 調査研究②について

キャリア教育の専門的知識を有する外部
人材の活用及びその活用の在り方

今年度も、いわゆる社会人講話のほかに出前講座、進路講話、マナー指導などに外部からたくさん講師を招いた。前年度は、2年生にも全校生徒にも聞かせたいと対象が広がったものもあり、相互の関連性がわかりにくいとの指摘になったが、今年度は本来形に近いものとなった。

取組2年目のメリットは、講師依頼がスムーズに行われるようになったことである。保護者12人を講師に招く「社会人講話①」のためには入学式で協力を呼びかける機会をつくった。各職種に対応した講師23人を一度に招く「社会人講話⑤」においては、前年度に引き続いて快諾してくださる方や同じ職場の別の人を推薦してくださる方もあった。

昨年に引き続き、外部人材を活用するにあたっての第一の課題は講師の人選だと感じている。昨年の反省をもとに、講話の目的やストーリー性を十分に周知していただけるよう意識的に事前説明を試みたのだが、なかなか理解していただけないこともあった。

3 調査研究③について

③は「その他」である。今年度は、Will Project 全体の見直し、特に「学習指導の改善」に取り組み、小論文指導体制も改善した。「夢と志」を実現するために個々の生徒に「確かな学力」をつけることがProject全体の最大課題と捉えて努力を続けている。

夢・志

ライフプラン
Will プラン

夢を求めて

夢を叶えるために

進路講演会

1年 3年 1年~3年

1年 視野を広げる。
● 職業研究
● 社会人講話

2年 資質と適性を知り、高い志を持つ。
● インタビュ
● シップ

3年 目標実現に必要な能力を理解し、意欲的に挑戦する。
1年~3年 社会に貢献するこの意義を考える

文武両道

学 習

基本的な生活習慣の確立

進路講話

1年 調査・整理・表現する技法を習得する。
● 学部学科研究
● オープンキャンパス

2年 思考・探求・表現する力を高め体験を生かす。
● オープンキャンパス
● 大学出前講義

3年 学ぶ目的を明確にし、他者に論理的に伝えることができる。
1年~3年 大学入試に向けた学習法の確認

基本的な学習

アドバイザーの紹介



辰巳 哲子

(たつみさとこ)

リクルートワークス研究所
主任研究員



1992年株式会社リクルート入社。組織人事コンサルティング室の後、キャリア事業開発室にて、若者のキャリアカウンセリング業務に携わり、2003年4月より現職。キャリア教育の研究実績として、提言書『分断されたキャリア教育をつなぐ。』の発行(2004)、岐阜県教育委員会との共同研究(2003~5)、『基礎力の育成でつながる教育現場と社会』(2006)、三重県教育委員会キャリア教育手引書の作成(2007)などがある。

Will Projectの取組も今年で2年目を迎えました。

今年度の前半は、生徒の自己効力感調査の結果をもとに、生徒の現状を先生の間で共有していただくことに関わらせていただきました。この「自己効力感調査票」は、2つの目的をもって作られています。1つ目は、生徒の現状を計画に反映すること、2つ目は、先生方が「教えたこと」ではなく、「生徒が学んだこと」に目を向け、目指す生徒像について、関係者の中で共有することです。1つ目の計画への反映については、調査結果をお伝えした後に、校長先生からその結果について再解釈をいただき、能代高校の推進する指導計画との統合をはかっていただいた上で、先生方に共有していただきました。生徒の現状分析の結果を反映したのものとしては、本報告書にも記されているとおり、「1年次からの体系的な小論文指導」や「能動的な発言を引き出す授業づくり」「聴く、体験すること」を「学び」へ転換するために活動のテーマをより明確にすることなど、具体的な実践活動として、反映が進んでいる様子が伝わってきます。また、こうした先生方の取組の結果、文理選択にぎりぎりまで迷う生徒が出てきたということは、活動の大きな変化を意味しています。

また、調査票を作成した2つ目の目的である、「生徒の学びの視点で、目指す生徒像について関係者間で共有する」という点については、年度後半に行なった、先生への講演の際に共有が進む状態の一部を拝見させていただくことができました。この講演のためにお伺いする前に、ご担当されている藤原先生から「キャリア教育が継続する学校の特徴について話をしたい」という依頼をいただきました。当日はいくつかの特徴についてお話しした後、現状の能代高校が抱えている課題について、学年に分かれた先生方にディスカッションをしていただきました。このディスカッションで先生方から出された、コメントの一部についてご紹介をしたいと思います。

- ・今年度は社会人講話について振り返ることができた。生徒たちが話し合っ
て深める時間があった。去年までは、せっかく社会人の話を聞いても生徒
の中で深まっていなかったのかもしれない。
- ・3年間の計画がしっかり決まっていると、活動を1つずつ「こなす」状態
になってしまうかもしれない。生徒の状態にあわせて柔軟性を持つことが
必要だ。
- ・生徒は、「何故いまこれを考えなければいけないのか」、理解できているわ
けではないと思った。

これらの発言からは、先生方が生徒の学びの視点で、いかに活動を効果的にしてゆくかを考えていらっしゃる事が伝わってきます。能代高校のWill Projectを生徒にとっていい学びにしていくための知恵は既に先生の中にあり、今後はいかにこの先生方の知恵をProjectに反映し、生徒の支援に役立てるかということが鍵になると考えています。

さて、Will Projectも3年目を迎えます。来年度の課題の1つは、生徒自身がWill Projectの学びの構造を理解することによって、「自分が何を学んだのか」、「何故それを学ぶのか」、「学んだことをどう使うのか」が理解できる状態をつくっていくということです。この活動が進めば、学年間での活動の接続についてもより活性化していくことになり、何より生徒の主体的な学びに転換してゆくことができると信じています。そしてこの非常に高い目標に能代高校の先生方は、高い志を持って取り組んでくださると心から信じています。

最後になりましたが、能代高校のすべての先生、お会いした生徒からは、非常に多くの学びの機会をいただいています。特に、東京-秋田間でなかなかお会いできない状態にあるにも関わらず、信じ任せていただいた山本校長並びに頻繁なメールでのやりとりにもご対応いただいています藤原先生、そして能代高校のすべての先生と生徒に、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

総合的な学習の時間フェスタ2009に展示したポスター

(平成21年2月13日)

秋田県立能代高等学校

Will Project

におけるキャリア教育の取組

Will Project とは

生徒に「大きな夢と高い志」を持たせ、自己の可能性に挑戦する気概を育てることを目的とした取組である。

○目指す学校像と人間像

○学校像：夢と志をはぐくむ学校 ○人間像：様々な分野で日本や地域の中核を担う、心身ともに健康な人間

○具体的取組について

(1) 基本的生活習慣の確立に向けて

①マナーアップ指導 ②礼法指導の実施 ③規範意識の向上に向けた取組 ④家庭との連携 ⑤年間指導計画の作成

(2) 自他を知り、社会を知ることで、学びの意欲を高めるために

①「総合」の時間を用いて、「学びの意欲を高める」取組を行う。

②各学年の取組

1 年：社会を知り、夢を育む

方法：聴く、調べる、表現する

テーマ：探求活動とおして社会を知り、自分の夢について考える。

ねらい：夢を持たせるとともに、調査力、整理力、表現力をつける。

2 年：自分を知り、志を確かなものにする

方法：体験する、調べる、表現する

テーマ：体験活動とおして自分を知り、社会での役割を考える。

ねらい：自主的活動を奨励し、計画・実践・まとめ(発表)・自己評価

できる力をつけるとともに、ライフプラン作成能力をつける。

○年間の取組

スクールマナー集会 (4月)



本校で「マナーアップ指導」の取組として、マナー集会を開催している。

職業研究 (1年生/6月)



大学の1学部・2学部・3学部の内容を詳しく調べることで、大学で学ぶイメージを明確化し、将来の進学の方向性を見つける。

○指導の柱

(1) 基本生活習慣を確立する

(II) 己を知り、他を知り、社会を知ることで、学びの意欲を高める

(III) 学習態度の改善

(IV) 文武両道の堅持

3 年：挑戦する気概を育てる。

テーマ：進路別探求活動とおして、進路目標に関する探求を深める。

ねらい：自立心と向上心、目標達成意欲をたかめ、困難に負けない力をつける。

インターンシップ (2年生/8月)



様々な企業でインターンシップを実施し、多くの企業を知ることで、大学でのキャリア教育や職業の就職を視野に活動している。

インターンシップ (2年生/8月)



インターンシップの心構え (2年生/7月)



外部講師を依頼し、実践的な指導で職業選択や職場・社会の厳しさを実感させることを意識している。

インターンシップ (2年生/8月)



学部学科研究展示 (1年生/10月)



大学の特色や学部・学科の内容を詳しく調べることで、大学で学ぶイメージを明確化し、将来の進学の方向性を見つける。

大学出前講座 (2年生/11月)



大学の講座を実際に体験することで、大学で学ぶ意義の重要性を知り、学びたい分野に関する興味関心をより高めていく。

社会人講話① (1年生/5月)



企業で研究開発はじめ様々な分野で活躍している方々の講話を聴くことで、新しい職業観や人生観を養う。

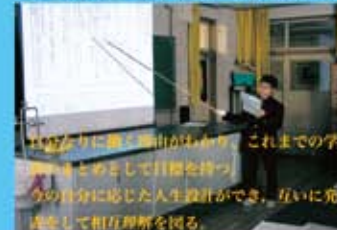
社会人講話② (1年生/9月)



社会人講話③ (1年生/12月)



ライフプランの作成 (1・2年生/1月)



自分なりに調べる理由があり、これまでの学習の成果を踏まえて目標を持つ。今の自分に合った人生設計ができ、互いに発問をして相互理解を図る。

教育方針

校訓

「至誠力行」 (昭和5年制定)

校是

「文武両道」

教育目標

- 己を抑え、清く正しく、真心をもった生活ができるようにする。(克己誠実)
- 強い進路目標をもち、その達成に向かって、自ら求めて学習できるようにする。(自発学習)
- 心と体を鍛え、本校の名声を高めるために部活動に積極的に励むようにする。(部活精励)

沿革・卒業生

沿革

- 大正14年4月 秋田県立能代中学校として創立
- 昭和23年4月 秋田県立能代南高等学校と改称
- 昭和28年4月 秋田県立能代高等学校と改称
- 昭和49年11月 高埜に新校舎落成、樽子山から移転
- 平成元年11月 雨天体育館完成
- 平成5年2月 前庭施工
- 平成7年9月 創立70周年記念式典を挙行
- 平成15年4月 理数学科新設
- 平成16年4月 2学期制実施
- 平成17年9月 創立80周年記念式典を挙行

卒業生

総数19,885名

県内外で各界の重鎮として活躍

生徒数

在籍生徒数700名

(平成20年4月8日現在)

学年	1年		2年		3年		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
普通科	121	115	108	93	104	91	380	320
理数科			23	13	24	8		
合計	236		237		227		700	

進学状況一覧

卒業年	平成20年		平成19年		平成18年		平成17年	
	合格	進学	合格	進学	合格	進学	合格	進学
国立大学	107	96	96	90	85	78	78	70
公立大学	26	19	24	21	21	17	17	15
管外大学	1	0	1	1	1	0	1	1
(国公管小計)	134	115	121	112	107	95	96	86
私立大学	211	83	224	84	247	99	251	117
4年制合計	345	198	345	196	354	194	347	203
国立短期大学	0	0	0	0	0	0	0	0
公立短期大学	3	2	5	3	3	2	5	3
管外短期大学	2	1	1	1	0	0	0	0
私立短期大学	7	2	21	16	9	5	17	10
(短大合計)	12	5	27	20	12	7	22	13
専修・各種	15	11	34	29	46	32	20	18
総計	372	214	406	245	412	233	389	234
卒業生総数	234		277		274		283	

校舎配置図

-
- ① サッカー練習場
 - ② 硬式野球場
 - ③ 軟式野球場
 - ④ 硬式観覧席
 - ⑤ 軟式部室
 - ⑥ 小屋
 - ⑦ ゴミステーション
 - ⑧ プール
 - ⑨ テニス部室
 - ⑩ テニスコート (4面)
 - ⑪ 雨天体育館
 - ⑫ 陸上競技場
 - ⑬ セミナーハウス
 - ⑭ 管理棟・特別教室棟
 - ⑮ 昇降口棟
 - ⑯ 普通教室棟
 - ⑰ 第二体育館
 - ⑱ 格技場
 - ⑲ 部室
 - ⑳ 第一体育館
 - ㉑ 駐車場
 - ㉒ 自転車置場

交通案内



所在地

〒016-0184 秋田県能代市字高埜2番地の1
電話 (0185) 54-2230(代)
FAX (0185) 54-2231